



## 武蔵野・生活者ネットワーク

武蔵野・生活者ネットワーク 桜井夏来の活動を紹介합니다。

さくらいなつき

# 桜井夏来

レポート

<http://sakurainatsuki.seikatsusha.me>

武蔵野から、誰もが

希望の持てる社会を

**吉** 祥寺南町で生まれ、地元の三小・三中を卒業した私ですが、子ども時代は家族の仕事の都合で海外で過ごした期間も長かったため、武蔵野を「わがまち」と感じる場面は少なかつたように思います。

武蔵野について強く意識するようになったのは、二十代になってから。環境問題の専門家だった父が、市民グループの方々に推されて、武蔵野の市長選挙に出ることになったことがきっかけでした。

この選挙を通じて、「武蔵野を良いまちにしたい」という想いを持つ多くの方々と出会い、市政は一気に身近なものとなりました。

また「政治」についても、政党や政治家だけに任せるのではなく、普通の市民が声を上げ、力を合わせて動かしていくことが大事なのだという想いを強く持つようになりました。

**残** 念ながらこの時の市長選挙はあと一歩力及ばず、父自身も仕事の関係で武蔵野を離れざるをえなくなりましたが、武蔵野に深い思い入れを持つようになった私は、その後もまちのことに関わり続けていきたいと思いい、様々な市民グループに参加して行きました。

こうして二十代・三十代を通じて、仕事をし、家庭を持ちながら、まちづくり・情報公開・福祉・平和・食の安全・協働など、多様なテーマの活動に携わる日々を送りました。

**転** 機が訪れたのは、三十代後半を迎える頃。

二〇一二年末の衆院選で自民党が圧勝し、第二次安倍内閣がスタート。公然と格差を肯定するような経済政策や、命や健康よりも利益優先の原発再稼働、そして日本を再び戦争

する国に引き戻そうとする憲法改正の動きを目の当たりにして、強い危機感を抱きました。

「本当に社会を良い方向に変えたいと願うのなら、自分自身が前に出て声を上げなければいけないのではないか？」

三人の子どもの父親となった私は、かつての父の姿を思い出しながらそう感じるようになっていきました。

**そ** んな中で、「暮らしを大切に

する政治」、「市民が主役の政治」、「命と平和を守る政治」を目指す生活者ネットワークの活動と出会い、私の気持ちは固まりました。

すべての子どもたちに希望が持てる未来を渡して行くために、そして誰もが安心して生きていける社会を実現するために、私にとって一番大切なこの武蔵野のまちから、全力で取り組んで行こう。

今、その決意を胸に、活動を進めています。



## 桜井夏来プロフィール

- 1974年 吉祥寺南町で生まれ、子ども時代をフィジー、ペルー、マレーシアで過ごす市立第三小学校・第三中学校卒業
- 1993年 桐朋高校卒業
- 1997年 沖縄大学人文学部中退  
ソフトウェア会社勤務
- 1999年 武蔵野市長選挙に関わる
- 2001年 衆議院議員川田悦子秘書
- 2002年 福祉用具専門職勤務
- 2007年 武蔵野市市民協働サロンのスタッフ
- 2009年 武蔵野市NPO・市民活動ネットワーク理事
- 現在 デザインの仕事の傍ら、市民活動に参加

- 吉祥寺南町在住
- 家族は妻と息子3人(小6・小4・小1)
- 週末はボーイスカウト(小金井)でリーダーとして活動

## 生活者ネットワークとは

生活者ネットワークは、市民の政治参加のための仕組みとして、市民自身が作り上げた地域政党です。武蔵野では、1994年から活動をスタートし、この20年間で3名の市議会議員を送り出してきました。武蔵野・生活者ネットワークの政策委員、桜井夏来は、現職市議の西園寺みきこと共に、武蔵野市政がより市民の声を生かしたものとなるよう、活動を進めていきます。



邑上市長(中央)、西園寺みきことがっちり握手

## 生活者ネットワーク3つのルール

1. 議員は交代制(ローテーション)
2. 議員報酬は市民の活動資金に
3. 選挙はカンパとボランティアで





# 大人も子どもも、誰もが生きやすい武蔵野に

## 武蔵野・生活者ネットワーク 桜井夏来の政策

### 学校は子どもたちの学びの原点

先生が子どもたちと向きあえる時間を増やすために、自治体独自の取り組みによる小・中学校への教員の加配をめざします。



### 途切れのない子育て・子育て支援を

0歳から18歳まで継続して通え、専門家の関わりと地域の見守りが得られる児童館的機能を持つ施設を拡充します。



みんなで食卓を囲み、子どもたちを見守る「子ども食堂」の活動を見学

人と人がつながりにくい社会の中で、「子育て」が「孤育て」になってしまっている現実があります。本来、「子育て」は社会の未来を作る営みです。子どもたちや、子育てする親たちを地域社会全体で支え、一人ひとりのかけがえのない「いのち」を守っていきます。

### 障がいのある人もない人も共に生きる

「障害者権利条約」に対する市民の学びを深め、全ての人が尊重され認め合う社会の実現に取り組みます。



「障害者権利条約」では障がいのある人たちを「保護の対象」ではなく、「権利の主体」として位置づけています。障がいのある人もない人も「自分の人生は自分で決める」という当たり前のことを実現できるよう、地域の中に支援体制を作っていきます。

### 若者の生きづらさを地域で支える

学び直しや、やり直しができる再チャレンジ可能な社会を目指して、総合的・横断的な支援の仕組みをつくります

ニート60万人、引きこもり70万人、フリーター182万人。就職が出来ても非正規の雇用が多く、生きづらさや社会的な困窮を抱える若者の数は増える一方です。地域から自立支援の取り組みを行い、若者が希望を持って働き、参画できる社会を実現します。



### 「労働」の見直しを地域から

ワークシェアを進めることで長時間労働をなくすと共に、働きたい人が誰でも働ける環境を実現します。

### 武蔵野から平和と人権を守る

憲法を活かし、平和と人権を守る社会を地域からつくります。



武蔵野市平和の日記念式典に参加

### 大事なことは市民が決める！

武蔵野の市民主権、市民自治を確かなものにするために、市民参加で「自治基本条例」を制定します。

私たちの望みを全て実現しようとするれば、将来の世代に大きな「ツケ」を残すことになります。一人ひとり、求めるものは違うからこそ、話し合いを重ねて、社会的合意のもとで取捨選択をしなければなりません。その過程こそが私たちの目指す「市民自治」です。

### 次世代にわたす豊かな水・空気・緑

武蔵野の雑木林を、人と人がつながる場所＝新たな都市の里山と位置づけ、市民参加で育てていきます。



市内の雑木林で生き物・環境調査

### 性別による不平等のない社会を！

男女共に家庭・地域・仕事を大切にできる豊かな社会を実現するため、ワークライフバランスの推進に取り組みます。



### 高齢になっても自分らしく暮らす

医療・介護・看護と地域の連携による「地域包括ケアシステム」で、いつまでも安心して自分らしく暮らせるまちを実現します。



武蔵野市は「地域包括ケア」を「まちぐるみの支えあい」と言い換え、互助的な支え合いの力を重視していく方針を打ち出しています。こうした地域の力を活かしていくためにも、コミュニティの拠点となるよう、多様な場を整備していく必要があります。

桜井夏来さんを

応援します



山口二郎

法政大学教授  
立憲デモクラシーの会共同代表

いま、日本全体が正気を失っているように思える。メディアにあふれる殺伐とした言葉、株価を引き上げるために手段を択ばない経済政策。私たちは民主主義を担う市民と胸を張れない時代である。こんな時代を転換し、正気を取り戻すためには、身近な政治から民主主義を作り直すことが必要だ。統一地方選挙で生活者ネットワークの周りに、日本を憂う市民が集まることを呼び掛けたい。

中川李枝子 絵本作家

草の根一本の私は無力でも、市民政治の担い手として有能ですばらしい「生活者ネットワーク」につながることで、ひとりぼっちではありません。東京の未来に希望を持ち続けております。

辻山幸宣 公益財団法人 地方自治総合研究所所長

「自治体は国の一部で大事な仕事はない」と思っている人が多い。だが、東京都の予算規模は世界第9位のカナダの国家予算に匹敵する。武蔵野市はモナコやラオスの国家予算より大きい。有権者市民にはこの大きな仕事に応える議員を育てる責任がある。しっかり見て投票しよう。

内山節

哲学者 / 立教大学教授

山田真

小児科医

森田明美

東洋大学教授 / 子どもの権利条例  
東京市民フォーラム事務局長

邑上守正

武蔵野市長

桜井国俊

元沖縄大学学長

砂川なおみ

前武蔵野市議会議員